飯道山ハイキングマップ

飯道山は、飴令山（かれいさん）、金寄山（こんきさん）とも呼ばれ、古来より山岳信仰の対象とされてきました。いつ頃から山頂に坊が営まれたかは明らかではありませんが、「延喜式神名帳」に「飯道神社」との名が見え、平安時代には神仏習合の飯道寺として山頂に多数の僧坊が立ち並ぶ大霊山であったようです。特に中世から近世にかけては修験道の一大聖地として信仰を集めましたが、明治の神仏分離で廃寺となり、水口町三大寺の飯道寺に法燈が継承され、今に伝えられています。

遺跡は山頂（標高 664.2m）より 25 分ほど下った二の峰に所在し、往時の隆盛を偲ばせるものは、現在では極彩色に彩られた飯道神社本殿（国重文）と坊院の石垣だけになっています。山頂からの眺望は壮快で、西は宮町盆地を一望でき、北は晴れた日には遠く琵琶湖まで見ることができます。


山頂からの眺望（宮町方面）


宮殿跡（史跡紫香楽宮跡「宮町地区」）


展示室（宮町遺跡調査事務所）


寺院跡（史跡紫香楽宮跡「内裏野地区」）

ルート付近の見学場所

＊注　地図に示している時間はおおよその所要時間です。
ハイキングルートはわかりやすいのですが、登る際は十分な準備をしてください。

①国史跡紫香楽宮跡

紫香楽宮は天平 15～17 年（743 ～ 745 年）に聖武天皇によって造営されました。現在 5 つの地区が国史跡として指定されています。最も北には宮殿跡（史跡紫香楽宮跡「宮町地区」）があり、南に大仏を造立しようとした寺院跡（史跡紫香楽宮跡「内裏野地区」）があります。調査事務所の一角に展示室があり、平日の 9:00 ～ 16:30 まで開館していますが、臨時に休んでいることもありますので団体での見学は事前に確認を。（調査事務所　TEL0748-83-1919）

②県史跡信楽焼窯跡群（中井出古窯跡）

安土桃山時代の信楽焼の窯跡で、半地下式で焼成室が 2 つに分かれる特殊な構造をもつことが名古屋大学の調査で判明し、県史跡に指定されています。現在は埋め戻してありますが、現地に説明板が立っています。

【編集】　雲井自治振興会
〒529-1803 滋賀県甲賀市信楽町牧 72 - 3 ／ TEL 0748-83-8531　FAX 0748-83-8532
【編集協力】　甲賀市教育委員会 歴史文化財課　【発行】　信楽町観光協会

市指定史跡

飯道神社・飯道山遺跡

飯道山の最盛期には 20 カ所あまりの坊院が建ち並んでいたことが「飯道山惣絵図」に描かれ、それを裏付けるように坊院の石垣が山中に累々と残っています。

中でも智積院跡や宝蔵跡、東照宮跡では城郭を想わせる壮大な石垣が見事に残され、中世から近世にかけての典型的な山岳寺院の構造をそのまま残す貴重な遺跡です。

飯道神社本殿は桃山様式の正面三間の建物で、正面に千鳥破風と唐破風を有しており、国の重要文化財に指定されています。遺跡の奥には安土桃山時代の高僧で、織田信長の焼き討ちから寺院を救った木食応基上人の入定の地と伝えられる小さなお堂があります。

見学の際には、遺跡内に切り株や古井戸が隠れていることもあるので十分気をつけてください。



②木食応基上人入定窟



①飯道神社本殿（国指定重要文化財）



③坊跡にのこる石垣

飯道寺跡遺構概要図（中井均作図）

坊跡の比定は『滋賀県史蹟調査報告』第五冊によった。